

A photograph of a glass of water with ice cubes and a water bottle in the background. The glass is in the foreground, filled with water and several ice cubes. The water bottle is in the background, partially obscured. The scene is brightly lit, creating a high-contrast, almost ethereal atmosphere. The text is overlaid on the image.

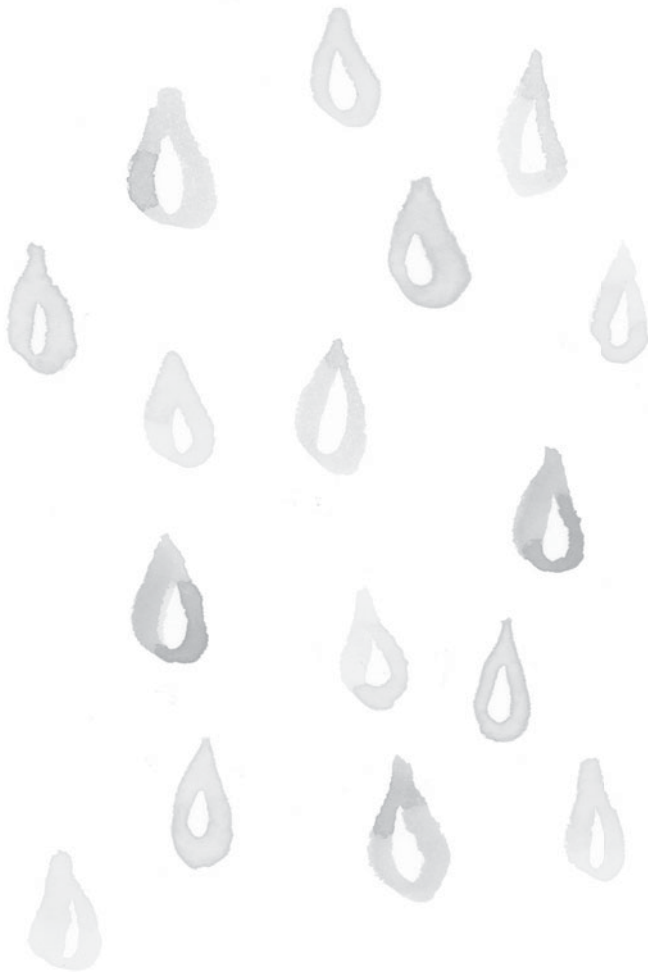
みずつき

5

80名による480首の「水」がテーマの合同短歌集

みずつき

5



宵祭り

swimming school

宵祭り水紋模様の中着はあなたのために新調しました

繋がれぬ手が水風船もてあそぶ袖はなびげば触れられるのに

すくえないつかまえられない逃げていくすり抜けていくきみも金魚も

川縁にまわる小さい水風車 木下駄に飛沫かからぬように

水菓子持つ手震える一斉に響く風鈴 かき消す言葉

ソーダ水飲み干し最後の「さようなら」あなたのいない夏のはじまり

空記野みずほ @coffeinkpress

雨音とタイヤ

みぞ

スピードを上げて ガラスを雨粒が震えて登るところを見たい

もう一度はるかな雲になる夢をかき消しながら進むワイパー

ワイパーの音を聞きつつ眠るのが好き 泣きやすい月に生まれて

サイドミラー飾る水滴ごしの世界まるい歪みに守られている

雨、エンジン、タイヤの摩擦、カーナビとあなたが何か会話している

水たまりいくつ踏んだか数えてる百になるころ街灯が点く

秋山生糸 @kito25

有村桔梗 @chatenoire_k

泳げない人は一番右端のレーンと言われ僕だけが立つ

10mラインは遠く引かれてて見たこともない犬かきをする

ビート板につかまりプールの底を見る水の中とは不思議な記憶

息継ぎのたびに口から入る水塩素の臭いをお腹で感じる

頭では理解しているクロールのバタ足だけで切る波高し

人間の進化としておく泳げない理由を求められたときには

天野うずめ @uzume_no_hijiri

わたくしの夢のなかまでりうりと真夜中色の雨は降りをり

みづうみに棄てたナイフは錆びるだらう 赦してもよい時の速度で

波打ち際につくあなたのあしあとを踏み消すやうに短夜をゆく

名付けえぬ感情としてわたくしのなかに流れる水脈みのあること

旅人の雨の匂ひの満ちてゆく駅の待合室に眠りぬ

立ち尽くすわたしにルビをふるやうにただ六月の雨は降りをり

雨曜日

すこやかに気だるい午後の水曜日あなた似のゆうれいが可愛い
水浸し愛の証をばらまいてあたしも君も所詮液体

雨の夜好きな映画を見ている嘘ですあなたを見ているのです
雨宿りしたまま二年経ちました隣できみが傘を持つまま

紫陽花は雨を愛しているのですだから傘などささないのです
会いたくて泣き出しそうな空のいろ私自身が雨なのでしょう

杏野カヨ @kayo_anno

水を抱く

「雨上がりいつもの角の紫陽花に歩みをとめるきみをみつける
水たまり飛び越す姿明日はまた違う日だって知っているんだ
いつだって真水のようなまじめさできみは言葉にこころをこめる
朝起きてまず1番に水を飲むほくろの位置は右肩だけ
僕の中海が生まれる駆け寄ったきみが小声でささやくときに
木は木だし川は川だというきみのうすき手のひら幼子を抱く

井田直 @id_na00604

DROP

冬の雨を受け入れてあるこの街でサンタクロースの不時着を待つ
明後日は雨であらうか天気図に歪に描かれた水溜まり

県北のぼたぼた雪を降水と、お姉さん泣かないでおねがひ
手袋の毛糸になじむ、いや溶けちまふ雨粒のああ、上がつたね
しろつぶ、どろつぶ、しろつぶ、どろつぶ、しろつぶを動詞としては載せない辞典

折り畳み傘を（こめんね）取り出して鞆の口をかたく、しめた

伊豆みつ @izmit_tanka

わたしに戻る

ほころばやがてあなたは去るでしょうやわらかく降る雨の中庭
自己愛の軽くなりゆく齡としにて海の近くに杭を打たぬか
ひたすらに海に近づく夢を見て補完されゆく私の影
ミルフィーユ選ぶゆうべに雨が降りわたしは強いふりしかできぬ
はつなつのジキルとハイドのさみしさを海の青さに晒してゆけば
雨が降る前のおいに包まれてわたしはわたしに少し戻った

いなごみ。 @inizm

水匠

なんべんも空に垂線ひきなおすあの水琴窟の鳴るところまで
ウオオータアアと叫びたくなる烈しさを押し戻すように傘を拡げて
水蜜桃眠る産毛のつめたさを撫でてひみつを逆立ててみる
群青の帳の肢体裂かれればシヨカシヨカと啼く水茄子
トビウオの跳ねから羽が出るまでの輪廻かさねるように白波
閉じられた二指の間をこじあけて夏へと誘うビーチサンダル

うわうらら @usaurara

水曜の使者

日曜の使者は遠くへ 水曜の使者なら僕を深いところへ
みつびしのエレベーターはゆっくりと閉まった 首を絞めるはやさで
窓のない部屋は潜水艇のよう ふたつの息を夜に沈める
これはガソリンよりも高価な飲料水 撒き散らしたら燃えるだろうか
国道をすべりゆく車の音も それは潮騒なのかもしれず
そうだとでもそのままでもいいと言う あなたが蟹のようにさびしい

牛隆佑 @ushiyu31

白雨、光の剥片

五月雨の玻璃に浮かべるきみの瞳のくらさをいはんとすれば烏羽玉
蜻蛉せいてんのつと沈ませる水面ほど浅き古傷撫でさせてゐる
葉は虫に花は季節に喰はれけりけれど雨中に身を研ぐ桜
花かみぞれかわからぬものに搏たれゆく追憶といふ咲わへる旅を
麦藁帽にすくへるだけをすくひつつ白雨、光の剥片として
てのひらといふ帆船に享くる風 美みしきことさへ泳ぐねばならぬ

紆夜曲雪 @cell_44

雨を待つ町

あの人と電車が駅を離ればとり残されて雨を待つ町
湿り気をおびた空気が大げさにヘリコプターの音を伝える
明日にはいない気がするビルの上ぼんやりひとり立つ避雷針
バス停も郵便局も何もかも沈んでしまえみたいな驟雨
アーケードまでの雑踏 わたしには溢れる川はないのでしょうか
あつという間に止んだ雨ひたひたとひとりという名の楽器を鳴らす

泳一 @Eishimada

雨色に咲く

あかねさす紫陽花の花の紫が夏日の街をわずかうるおす
白き花が日ごとさやかに色みゆく飲めない人の酔いたるごとく
薄桃の山あじさいのほのかなるほほえみひとつ雨音消して
水滴がひかりを集め映える色 雨上がりには川沿い歩む
空よりも海よりもなおきわやかに路辺に咲く花 青を主張す
鎌倉の明月院の花の香は過ぎゆく人の憂いをまとう

太田青磁 @seijota

雨と音楽

雨傘を失くした僕のために降る紫の雨、Purple Rain
耳元の Pink Floyd 機械仕掛けの心臓を持つ人の傘
大雨の瓦町駅二番線 Last Train Home こゝちゃん
ゴミ箱にはみ出している新聞の KID A は虹になりたい
僕だって君と会いたい真夜中の Eric Clapton に時雨を
悩みのない日々が来るとは思わな(くれ) Somewhere Over the Rainbow

大橋春人 @hachidix

時

密林に磁石が狂い(呼んでいる)富士山麓の水がうまい
落ちてくる雨の質量に青い水玉のシャツが背にはりついて
私の生まれる前からの 水芭蕉は白色剥げて尾瀬の状差
夕焼けにぼうと光った花水木最期もかがやく伐られたそうだ
落選したオリンピッククの招致用エンブレムは水引のデザイン
五十年働きづめの父だから足の水虫は勲章だよ

小川窓子 @madoko_o

水槽を得る

わたしは(わたしは)水(水) 輪郭が揺らめいている心臓を持つ
水のなかからまず指、それから手、そこから腕を伸ばしてきたのだ
純水に生かされているわたしだけ透きとおるまで顔をなくして
水でできたからだを千切る風が吹きどんなに見ても水のまぼろし
人間になりすませない苦しさのために小さな水槽を得る
銀色のトライアングル鳴らすたび音が水面を伝って消える

萩森美帆 @OgimoriMiho

雨音のキイ

そういうのずっと濾過してきたんだねピエロが鼻を泉にひたす
雲ひとつない青空の朝だけはホットミルクの膜を捨てます
真つ白なシャツの匂いがよみがえる面影橋をうつ天気雨
泡に長い睫毛を落とすビール売りファウルボールに振り向きもせず
おお猫よ、犬、小鳥、人も聞きたまえ、汚され洗われ流れる音を
雨音のキイと合わない傘の中で告げる言葉はうわすべりして

小野田 光 @hikarutanka

「うづく、まる」読書会、雨

読書会紅茶を淹れて書きかけの歌集（ほん）の感想三分の一
うづくまる雨の信号機の前で中家菜津子通るかもしれ
あさくろい手術の跡がみみずほどうづく時にはきょうもまた雨
雨の日に植物図鑑重すぎる抱えられずにWebに手帖を
「今夏になった」雷言う空に雨が降り晴れ春が征んで
「ありがとう洗って明日返します」謂ってみたいと翌朝思う

@kaizen_nagoya @kaizen_nagoya

水影通信

城門へ堀へくだりぬ珈琲に牛乳（ミルク）の白をしずめるごとく
水底に蓮の想いは眠りいんひとつつぼめる白のみゆれば
一篇の詩を写したる紙の上に書き足している白蓮（しろはす）のこと
わけもなく居れば宝飾店街へ入りて過ぎくる夕ぐれのある
水の面（おもて）をはなれて来たるまなかに水はかけりぬひとりをおもう
桐の花 心にたのむ人はいてうすむらさきのおえる日ぐれ

風橋 平 @Kazhashi_O

死に水

雨女なる吾と会えど雨ひとつ降らざれば君晴れの神かな
雷雲が稲妻だけを連れてきて二人の肩を濡らさず去りぬ
子どもらの代はりに水を遣る父の腕毛は白く、朝顔光る
清潔な祖父の病室潜り抜け兄と見ていた冬の噴水
殺し屋がネクタイ結ぶ鏡越し初めて飲んだウオトカのネオン
死に水はいらない真夏土曜日の午後練で飲んだ水道の水

梶原 一人 @MrDekopin

雨傘番組

雨だった頃の記憶が薄らいでゆくのを防ぐ新加除湿機
喉元のくすぐり方がサイダーと似てるね水の代わりに飲む血
さようなら鎖骨に残る雨粒はぬぐえば落ちてゆくキスマーク
空梅雨に乾いた道でたい焼きは海を夢見る干からびながら
蒸発を繰り返しつつ生きてきて湯気で終わった父の生涯
密命を負った豪雨のひとつと群れがすわ、と野焼きへ飛び込んでいく

蒼紗 @blueregret

ワールズ・エンドの雨

真夜中の空の影法師あなたに送ることばを隠した
おぼつかないピアノのように何度でも乱れる五月雨 幕引きの頃
ぼんやりときつねの嫁入り見てしまう愚かな顔で傘もささずに
打ち込んだボーカロイドの無機質が滴のように埋め尽くす街
とめどなく砂の器に沁み込んだつめたい人の記憶を留める
雨の日のコアラの檻をひっそりと眺めていたい セカイよ終われ

風野 瑞人 @knizuto

ゆらめき

真夜中は夏の匂いにみちておりクチナシふわり溶けるみずうみ
灰皿に落ちたしずくは星の色いつかは空に返してあげる
祝いたい祝いたくない「すごいね」というたび君の声が遠のく
雨粒の音が聞こえる靴下を脱がない夜のファミリーマート
耳たぶに真珠を散らし織姫は川を渡って戻ってこない
生ぬるい夜を歩けばゆらゆらと牡丹燈籠きらめく水面

かつらいす @v_vTritu

水溶性

放課後が届けてくれたはつなつの雨は若葉のわたしを濡らす
あまつぶのぼつりぼつりと降りてきて両生類は水を欲しが
紫陽花が呼んでいるからはじめよう遠慮している雨の合間に
触れるとき境界線が滲みだす水溶性の体だこれは
満たされた水槽だったわたしたち触れたらこぼれてしまうほどの
ボサノヴァは雨の日にきく波の音とおい異国で愛が死んでいる

河 薫レイ @ray_kwsm

湿度

ひび割れが残る親指治り始めるもう春も終わりはじめる
変わり目ののど飴が付く溶け滴 包装紙食み剥ぎ取るざらり
名を知らず写す紫紺の草の花 雨の降り明け露ありて知る
室内に降り染みる雨凝縮しせせらぎを吐く立葵咲く
風そよぐ駅のホームにじわり夏みずみずしさが湿度に変わる
干からびたコンクリートに墜落す綺麗なままの黒羽の蝶々

川庭多機構 @nyakatsuki

とってちってた

いつまでもやまない雨におとうとはうれしくなって家をとびだす
あとを行くわたしを一度ふりかえり水たまりへとジャンプする足
おとうとの水かきはまだ小さくて上手に泳ぐことができない
らっぱならかつぱらつてもいいじゃない濡れたくちびるとってちってた
傘のないふりをしたからびしよびしよで、びしよびしよなのはいいんだけど
背泳ぎがとてきれいな人といいつか尻子玉を抜くつもり

きつね @001kitsune

雨の日

新しい長靴はまだ大きくてドアの内から雨音を聞く
いつの間に強くなったの雨音が「いつてらっしやい」かき消したのに
水たまり踏まないという約束を破って靴は歌い始める
ただいまと水玉模様のランドセル雨の分だけ重たかったね
濡れたまま靴下脱げば裏返る雨の日にだけ許す悪行
靴下をぐるり直して洗濯へ息子らの日々正しく巡れ

木原ねこ @kharaneko

朝霧

降り出した雨に触れんと伸ばす枝ミズスキのように人恋し朝
知っている橋の名前を言い合って並んだねポップコーンまでの行列
茹で加減にこだわる君に褒められたグリーンアスパラ得意顔して
もう少し経てば光を得られるか対岸に居るホテルを探す
行間を流れる川に身を委ね読み返してる君からの文
朝霧を喜ぶ幼と手をつなぎ歩く大きな背中が消える

希和子 @mitnonon

泉ヶ池のことなど

泉区の泉公園内にある泉ヶ池に今朝のしずまり

カモを見る 今押されたらこの池に落下することなども気にして

カモが二羽いてここで写メ。カモが二羽さらに来て四羽になって写メ。

毛づくろいしている池のカモからの絶え間なく出続ける波紋だ

風が出て泉ヶ池にうすうすと恋の予感のようなゆらめき

ここまでは音のない川ここからは音のある川ひかり集めて

工藤 吉生 @mk7911

古井戸 / fluid

あの店で水を出されたのかどうか覚えていない 霞む、巻かれる

何もかも投げ込んだ井戸は限界で恐らくそれがあたしのすべて

頼るべき相手はあんたじゃないってこと、知ってる、知るかよ、楽しんでくれ

とめどなく煙とともに吐き出していかれてんのはあたしのほうだ

降り立った駅前の道は濡れていてあんたを急に遠く感じた

「それでよく眠れるね」という声を反芻しては飲み下す水

鶏尾ねじ @njTKRV

まだ雨を探している

水差しが朝日の窓より注がれてフェルメールの絶対零度

雨粒が光り流れる青電話さがし続けてストリートビュー

傘さしてプチ出奔する真夜中はどんな路地でも異国になれる

微笑みでリセットボタン押すような別れのあとの雨はしょっぱい

異国から持ち帰られたノオトには雨粒ばかり記されていた

遠い声絶えぬ大河に黒々と記憶を沈め許される眠り

河野 瑤 @kono_yo_tanka

やさしい罪

水槽のプラネタリウムに時の舟もつと溺れていたかったのに

目覚めれば水底でした独りきり砂に埋もれた時計をさがす

六月はやさしい雫もうどこにいても潤んでしまふ三日月

降りそそぐまばらな夏にいつまでも翳りつづける黄色いベンチ

銀幕に流れるレビュー誰ひとり見ることのない海の静けさ

やさしさが痛いと思う日もあると気づく七月降りしきる雨

香村かな @komukana

いつも不機嫌

泳ぐとき背中に羽が生えそうな室内プールの水は空色
夜になり会員制のプールにはお浄めのため塩素足される
まつすぐにフロート沿いに泳ぎきる迷う道ない温水プール
水油無理やり混ぜたドレッシング別れるまではいつも不機嫌
六月の雨は甘くて温かい口移ししたみづが溢れる
土砂降りに濡れるのは嫌わたしから湧き出る汗も土砂の一片

漕戸もり @muramy3939

零れ桜

いつか道を違えてきみは川向こう 枝葉のさきにそれぞれの花
かざす手に陽はやわらいで左手は忘れてしまふ淡くもきみを
音をたてて泣いているのか零れゆくさくらにぼくはどうしようもない
散ることは手を離すこと ひとりでもこんなに花は潔いのに
ともに見るさくらの花がないことも心残りという花筏
水に浮くはなびらならば泡沫のそれでもひとに思われるなら

琴平葉一 @kotonoha31

空つ水

あらかじめけがれのなき種を蒔き去らう驟雨のまへの青き大地^{おほつち}
唇の端のしどりについた羽蟻をそつとつまんで空へはなさむ
うたかたの国はじけ消えしてやはにはじけ消えしをぬるソーダ水
二階より音のせせらぎとしていまニツク・ドレイク流れてきませり
締めあまき蛇口のしづく見つむれば数かぎりなくわれのかほあり
引き波がさわさわしるをのこしていく風つよければ乾きみじかし

左久間瑠音

水だけか知っている

水底に沈む夕日は微笑んで月が流した雨は何色？
汲み上げた井戸水を飲む少女だけ知っているから「母さんの味」
ただの水ワイングラスに注がれて高給取りの雰囲気を出す
原産地知られていない謎の水飲むと不死身になるというけど
秘密裏に改造された少年の口から流れる赤錆の水
濃い闇の透明感はお増したダムに沈めた君の泣き声

ササキ アンヨ @shibainbooks

今日も晴れ

ふるものとしての口付け 欲しいならわたしの水は飲み干すように
傘の柄のごとくあなたにくるまれてあなたの指をながれる血潮
とけきらぬバナラアイスにつぶつぶとパンを浸した指はどれです
(てのひらもゆびさきももうどこからがあなたで水で雲でとろけて)
雨傘をわすれてしまい駅からはひとりひとりとぬるませてゆく
すべからく会うときは晴れ 雨の夜はあなたの水の音がやまない

笹谷 香菜 @sstkn

水になる

なれるなら春のくうきの水分子 5 期限の進路調査票
曾祖母が命休めし病しつで甘雨を浴びる水の妖精
水無月の夜の深さを測定す少し遅めの反抗として
コーヒーに水銀落ちる音のして微笑むひとと微笑み返すひと
養老の流れにからだを投げてごらん地球で生を浴びてるものたち
水色のワンピースを着崩してわたしはどこにも溶け込んでいる

嫉妬 林檎 @shitto_ringo

夕凪

日曜の海岸通りわたしたち幸せそうな二人に見える
泡になる人魚の話かわいそう誰がつて王子かわいそう
夕暮れに海の水なら青くない 呼べばふるえるところのように
見てるだけにはもう飽きておだやかな水平線をたぐり寄せたい
かえろうか あなたに腕を放されて波うちぎわに帽子を落とす
沈黙にやさしくなれば問うことも問われることも溶かす夕凪

嶋田 やくらこ @sakrako0304

夏の客

この夏のぼくが最後の客らしい ひとり眺めている夜の虹
靴の中にはたまった水が夜空には馬鹿げたほどの星の死骸が
きみがラジオをつけるといつも美しい水が流れる一分間だけ
誰もみな物欲しげな夏 水面に映った顔が骨を唾える
水面に映ったきみの横顔とぼくの仮面が揺れている夏
愛おしむ夏の最後の客として 天井扇の羽根の水色

雀 來豆 @jackbeans2

2014年冬

エイチシックスオー

捨てられた聖布だとして絵柄にはスイカとパンとワインのはなし
茶を飲んでお菓子を食べて新聞をよむ母がいてゆめに気がつく
地表から湧きたつ雲もそのなかに居れば気づかぬ白い水蒸気
朝食はりんごひとつの雪のあざ珈琲をいま沸かしています
昼食はみなどみらいのならわしがふたりにできた横浜暮らし
水ぎはに萌ゆるみどりのさわらびの歌を思ひぬ春となるかも

春麗 @dipilurula

あじさい (hydrangea)

あじさいを揺さぶるように泣かせたいひとがいました雨がきれいで
六月雨 別のルビなど知らないが憶えておこうこのみずたまり
ああ、これは手招きですね水中花にきみの仕事を重ねてみれば
除湿機に溜まった水は一日じゅうわたくしがいた部屋の疲れか
とりたてて理由などなくテーブルに飾ってしまった紫陽花とみず
名にさえも水をたたえる花だから青すぎる星とおもう あじさい
hydrangea

杉谷麻衣 @kazanagistreet

連続で人が爆発する事件どうやらみんな水を飲んでる

近頃のなんちゃら水に含まれるガスが原因だって、こわいね

「この水にピンと来たなら「一番」電話が常に鳴り続けている

突然の悪夢によつてスーパの棚がまるまる空いている今日

爆発がまた起きました回収に応じなかった家のようです

野次馬のひとりのペットボトルにはH、6、0、おい、待てよ

スコラブ @scope_scape

ウォーター・コンプレックス

淋しさを足してソーダで割つてからたそがれが来た、それで一年
キャンセルのメールの余白を読むことに慣れてむらさきの五月雨
夏に咲く花、おそなつの海どれも唯一無二の明朗 いいね
手紙など読まない人よ波色のインクのかすれ まだ寄せている
あつさりと海辺の恋は終わらせてこの再会について語ろう
雨までの距離とは時間なのでしょううちまち翳る瞳の色を見て

たえなかず @suzusuzu2009

青い傘と頭

umbrella 想う涙に意味もなく重ねた願いは五月雨みたい
遠い空泣いていたのは隣人に虹が綺麗と言わせるためだ
留守の夜残る雨音儚くてあなたの気配無くしてしまふ
退屈を我慢できれば今だっていつかの雨が何故か降りだす
黙って強がる僕は手を伸ばしぼんやり光る雲の向こうを
半分こ青い傘差し何気なく短歌を詠むのガールフレンド

竹田 @octopax9240

洪水幻想

お祭りの少女帽子を落とすとき逆さまに立つ初恋の君
偽装した街の水辺の紫陽花が爆弾みたい雨に打たれて
目をぎゅつとつむれば光群れはじめ乳房陰唇なめれば光
占いをみんな信じているらしい女の股にぼつんと黒子
青姦の最中の不意のスコールは（さよならごめんバイバイまたね）
しなだれる黄色い肉を突き飛ばし月の光の下では綺麗

種子島鉄丹 @thr1979

なみだなみだ

悲しみに引き寄せられて眼球のあたりに涙集まってくる
なみだなみだなみだなみだとウミネコが鳴けば海とはやわい涙腺
水分と塩分とをしつかりとってあたしあなたの涙になるよ
向日葵の代わりに泣いたあの日から涙がずっと帰ってきません
雀にも涙を流してしまふほど悲しいことがあったのだろうか
新しい涙の流し方を知り 花火 かすかな晩夏であった

田村穂隆 @Da_Ho_Ra

見送る雨、迎える朝

泣いたのをしとしと雨のせいにして見上げる煙水無月の朝
逃げていく温かい手と雨の音 明日からどう生きていこうか
寂しくて潜った湯船午前2時 赤子へ還るそんな気がして
亡き母の香りふうつと蘇る銭湯帰りの濡れた髪から
雨音が激しくなればなるほどに薄れていくのは涙の記憶
風香り赤白黄色がポンポンと沼の底から光が見えた

知巳凜 @Chikorin7

不穩

雷鳴は不穩を告げるそのひとへ伸ばしたゆびを諷めるように
あんなふういきみも唇で唇に触れるのだろう立ち込める雲
ひとりじめできないことを飲み込んで胃の内側に降らせる冷雨
歩けない理由に替える匂い立つ舗装道路に滲んだ「止まれ」
「雨音がさみしさを引き連れてきて夜更け記憶の声をひもどく
ばらばらと傘が呼ぶからもう一度振り返っても構いませんか

千原こはぎ @kohagi_tw

いつかふりかえる

水底に沈めた花を拾うため屈めた背中のような初恋
泡になる前に見つめた横顔は本当に目を閉じていたかな
真珠貝ではない爪を置いていくゆびからこぼれひかりになって
言葉などいらぬという高慢な（健気な？）少女に世界を星を
花言葉「あなたはいつかふりかえる」思い出す日がわたしの命日
ゆるやかな祈りはやがて海に着きもうふりかえることはありませんでした

塚田千束 @a-oneko

健康ランド

ジェットバスに溶けてあぶくになることもあるかも知れぬ人魚を想う
岩塩の岩盤浴に長居してこは注文の多い料理店
蒸し焼きにすれば程よく柔らかく味の染み込む私のむね肉
ていねいからだ洗えば洗うほど美しさとはなにかと思う
バスタオル広げても空は飛べぬまま肌に残った水滴を拭く
正しさの標本として腰に手をあてて飲み干すフルーツ牛乳

月丘ナイル @nyle_222

雨ふる夜に思うこと

綿の実の白雲に指さし入れて雨粒の元を確かめている
無秩序のなかにしずかな秩序ありちいさな池を穿つ水滴
白糸で初夏の緑を縫うように小雨降るなり音もたてずに
金の雨銀の雨ふり紫陽花は恍惚とせりダナエのごとく
盛り上がりかすかに震え待ちいたる冷酒に君はくちびるを寄す
ひとり寝の雨のふる夜に思うこと太くて重い腕を抱きたし

月下 桜 @tukishitan

ミルク

silent dot 染みないで夜明けがくる、などと 過去に黒鳥はいない
再生の水がぼんやりたまりくる陸をもつものエチカそよげば
どぼどぼと海賊のゆめをみたのだとうったえおえる夕べのことも
著我の花 声をききたい檻のうちちからのような心濡れおり
まるで子を思いそびれて立つようだ潮くさき潮くさき獣、ともなく
待つ水のうごく理由を教えられそうやってしぬ 赤い月 きみ

とみいえひろこ @hirokodori

雨に咲く

マグカップふたつ分だけお湯を沸かす雨降りの朝の薄暗がりに
「雨男だから」と困ったように笑うあなたとふたり雨音を聴く
紫陽花は雨をあつめて咲く花 あなたは雨に愛されたひと
街路樹から降る雨の色、夏に近い雨にはみどりがつよくひかるね
手を繋げば温い ひとつの傘差してしあわせとはこの最小単位
雨あがりの街はあかるく完全な空の一部となるみずたまり

長月優 @spicadrop_

ストレイキヤット

ゆく人は傘の縛め解きながら早足となり匂い立つ雨
見渡せば切り取り線に囲まれたような広場に花だけはある
鼻面を押さえ続けた掌を見やる路面に映るテールランプよ
風は西へ移るのだろう左手の歌集めがけて集まる流れ
踏切のまたたきの間も火照るゆえ髪の吸いきれないほど水を
単線の遅延を告げるアナウンス濡れているのはベンチだろうか

中村成志 @nakam8

水垢のような恋残り

とめどなく山泣くなかに ひとりきり これほど泣いてしまいたいのになにげなくグラスふたつの水の跡 滴合うのをのぞむだなんて
雨花のように咲いたらすぐに散るそんなふつうのともだちにして
やすらぎの夢へ逃げても起こされる滴りおちる偲び露に
水擦らずだれも知らずにながれこみ好きな気持ちにはもういらないの
あの人のその心から終沫と恋したわたしよ すぐ消えなさい

奈月暁 @you_natskey

霖雨の庭

おそろいの雨のにおいを身に纏い待合室の一員となる
ざわめきの雨を縫うように名を呼ばれ真白の部屋のカーテンをめくる
体調はいかがですかと問われている雨を知らない部屋の主に
淡々とカルテに記す人の背に霖雨で煙るちいさな窓が
視界から輪郭をなくしてゆけば霖雨の庭に旅立つ意識
「いいですよ」次に会うのは梅雨明けと予約を入れる呼吸のように

七波 @magichapocket

水族館の人氣者たちとボク

真夜中の水族館でペンギンは南極へ行く予定をたてる
水上でラッコとともに手をつなぎ眠ってくれる職員募集
濡れるのが大好きだった透明なビニール傘の来世はクラゲ
宇宙ではアシカが水の惑星を使って芸をしているらしい
エクセルのイルカは海に飛び込んで自殺したって、噂で聞いた
生き物が全くいない水槽を眺めるボクはここで生まれた

西淳子 @Jacky244Ray

臍

噴水を断ちて久しき溜池の低きおもてに雨は粒だつ
駅前を立てる女の彫像の臍より雨水流れ落ちたり
銀縁をはずし目頭強く揉みあなたは再び活字へ潜る
歳の差を数えて昇る石段に苔の匂いは濃くなるばかり
山門をくぐりし風の御堂へと至る間に指を離しぬ
海底に沈んだ都市のように聞く あなたと暮らしていた人のこと

沼尻つた子 @numatsuta

一人と一人

雨上がり地に残された水滴と小鳥が躍れば夏の始まり
君の指のへこみがついたいろはすにかわりばんこに口つける 好き
ガス入りの水のせいだと君は言う不器用な舌のキスの言い訳
雨音が止む深夜2時サヨナラに聞こえる君のちいさな寢息
水風呂に突き落とされたようだったばかりと一人ずつだった
真っ黒な海の獣の手のような波よわたしを連れていって

榛 瑞穂 @mainsuburo

雨に唄えば。

ネイビーの水玉スカート翻る降水確率十パーセント
わたしには天気予報さえ嘘をつく頬にぼつりと水が触って
雨粒が歩道の色を変えていく足元だけが少し明るい
傘たたく雨音ぼろろん優しく小さく小さく鼻歌唄う
ステップを踏むように弾む雨音にわたしの唄が隠されている
水たまりよけて歩いたパンプスのつま先に夏が輝いている

薄荷。 @aieohimeco

雨のない街

ミニチュアの街水色のクレパスで塗りつぶそうよ わたしさみしい
砂の上寄せては返すさようなら懐かしさだけ苦い波音
身の内に湖などはあらねどもため池くらい持てる気がするよ
湯のまちで飲むほの青い炭酸水あなたの中に海が見えるよ
ひたすらに夕立を待つこともたち水なき街で手を上げ踊る
雨のない街の果てには海があり渴水を告ぐ船が行き交う

ひなのゆうじ @zonestar000

時の水滴

ビー玉にわれはぶつかる敵の王カチンの音にからだへかえる
水切りの石はねてゆく春の池 同心円の波は七つ目
きみだけがない教室きみだけの花がこぼれるきみがこわれる
積乱の雲ぞなだるる夏休みラピユタの庭へ歌いに行こう
生きてれば汚れることも傷つくことも次の電車に乗せて見送る
蜘蛛の巣がきらめく朝のけもの道さあもうすこし登ってみようぜ

笛地静恵 @sufism

川のある街

川のある町に生まれて波風が立たないように暮らしています
少しくらいわたしの話も聞いてくれ一級河川は名前だけかよ
サワガニもウナギもアユもいなくなり河川敷にて鴨と佇む
燃える町見つめた夏を照り返し曾祖母の目は静かに揺れる
とめどない汚水受け止め澱むから海に憧れ死んでいく川
土手走るヘッドライトが照らし出す川沿いに生きるひとひとのいのち

福山桃歌 @peachsong_521

纏き止める

川沿いを歩く向こうは美しく消して渡っちゃならぬと思う
触れたならばどけるような腕を持つ男の中で巡り行く川
体液になるための水それぞれに違っていたが今日だけ一緒
じうじうと降りくる雨は誰にでも優しいきみの言葉の後でも
磨耗した競泳水着捨てるときもろもろ鱗腕うしでがれるような
晩夏、飛び込み台を見上げている独りになっても泳ぎ切れ 行け

文車 兩 @ganymedel102

明るい窓辺

潤いのモンステラから透明が床までポツリ続いてポツリ
やわらかい朝はシャワーを浴びましょうやわらかくない朝はないから
太陽と肥料があつて健やかな日々否定は絶対するな
ぶよぶよの茶色い先をチョコキチョコキとすぐによくなるたつぷりの水
羽のある生き物たちの楽園は黒く潤うお城のもとに
完璧に育てていたし悪いのは君たちだから私は寝るの

古井久茂 @fulldom

聞こえなくて

青空の下で見えていたひどい夢いつかあなたに降りかかる雨
街灯に夜の草むら香りだし死者の記憶は立ち上がるもの
雨音にこめかみ冷えてお祈りは聞こえなくても続く(けれど)
両手からこぼれるように慣れるだろう負けていること目を伏せること
散る花をアスファルトへと沈ませて無いことにした幾つもの靴
残響に残響ふれる夕暮れの弦楽、やがて静かに水面

穂崎円 @golden_wheat

息をひそめた

雨だれの残り嬉しくなる夕べ理解者を得て理解者になる
胸元で髪の毛先が揺れているコップに水道水をそぎ飲む
『人ばかり見ていた』ばかり読んでいる二人お風呂で息をひそめた
蛇口から水を出す おおきいあくびしたそうにいるきみの早朝
見えていれば いればいいなあ北の海 人魚の一人や一匹くらい
ぽかぽかとぽかぽかいは似ていると雨期の晴れ間に言える人なく

増田達郎 @y_aao

ケモノの水源

数式の森奥深く分け入って誰も知らない水源がある
狼が優しく撫でて膝にわざとこぼしたのは誘い水
目隠しはいいね泣いても泣かせても優等生のままでいられる
水を弾く、のは、若い肌、ただだ、って、言葉をもっと浴びせてください
生臭い身体を隅々まで洗い流して一からまた愛される
明け方の青すぎる雨が止んだ後ノアの箱舟に似たじしん雲

深影コトハ @cotoha_mikage

此処からは雨

人間はみんな虚しい六月の鳴咽のような雨に打たれて
雨の日はちゃんと雨が降っている動物園へ閉じ込められる
絶望も代弁されて七月の山間に降る酸性の雨
青色のボールペンで書く日記 私の世界で雨と呼ぶもの
正夢になるかもしれない夕立にいちばんやさしい名前を付ける
人生の某みたいに雨が降る あなたに出会わずと前から

南瑠夏 @blue_rebels

水の熱

体から蒸発してく水分がきみからもう水で潤う
きみを抱くたびにわたしの殆どが水分だったと思い返して
きつとまた身悶えしては泣くだろう波音さえも誘う劣情
水温む季節を巡る何度目かきみの心を未だつかめず
涼しげな水色のシャツ脱ぎ捨てた彼の獣を誰も知らない
めくるめく夜を幾つか過ごしても夢から覚めず続いてく熱

忞末 @mimi_4567

天水

放水路満々と充つその傍の出水鎮めの水神の杜
龍神が祝ふ雨にて潤さむ可淡ドルの真直ぐな瞳
花筏煉瓦に沿ひて流るれば甲武電車の影の過ぎゆく
堤より溢るるほどに寄す水に畏るる心わずかな期待
眺むるは隣県なりと対岸は異界の如く霞みて遠し
夏までは来年までは生きようか訳なく真似る桜桃忌前

宮木水葉 @miyagi_mizuha

堀川めぐり

堀川の水面さざなむ 船頭のうなる舟唄心地よく
椿谷 小鳥の唄う森にいてサファリボートの趣がある
手を振るも観光客に関心のない鴨たちの隊列は行く
遊覧船揺られてみれば堀川の亀はいつでも不動の瞳
橋くぐるたびに身体をかがめては君のうなじに目をうばわれる
堀端で竿を振つてる少年の日々がわたしもかつてあったよ

宮嶋 じしゅ @miyazima_izq

Kitchen

十余年ガス台のないキッチンで鼻歌に乗り水は流れる
悔しさを忘れるために捏ねる肉 脂・役割・未練を流せ
ふるさとは忘れちゃいない煮魚の汁に少し足します柚子胡椒
本当は誰かのために立ちたくて未遂のまままでビールをべしゆり
蛇口から流れる水が旨い場所今後もここで生きていくこと
キッチンを流れる水は代弁す 知らないはずのわたしの何か

麦野 結香 @yuka_mjkut

淀川水系

芹川のせせらぎを背につらつらと彦根の城へ歩を進めゆく
法律の上では河川になるといふ琵琶湖にはるか竹生島が揺れる
大友皇子の涙に思い馳せ雨降りやまぬ瀬田の唐橋
生食と磨墨競いし宇治川をゆたり京阪電車が渡る
大阪の男が歌い大阪の女は笑う道頓堀の夜
不審火の広がりがてなお淀川は素知らぬ顔で海へと消える

村田 馨 @kaoru_murata

雨宿り

水を得た魚にもなれて傘はいつも折り畳まれた御守りだった
土砂降りの雨のミサイル撃ちぬいて コレデワタシガ一番キレイ
泣きながら追いかけた雨にもう振り向かなくていい夏の午後
体温も視界も脈をうつように奪われてゆく また通り雨
蒼すぎる空を曇らせ背を向けた 次第に雨はかなしみを増す
雨はよし 人目気にせず泣けるから ひととはそんなにかんたんじゃない

望月 万里葉 @pehnonaribon

みづのうた

さみだれのみだれの部分ウォーターインリップの青き文字は揺らめく
ウィルキンソンジンジャーエールの金色に水溶性の記憶さやさや
みなづきのあやふいバランスわたくしの水位をはかるめもりはゆれて
水色のしふおんの翅のひらひらとすがるをどめよわすれないでね
ひたひたと細胞みづくむポートアイランドにむかふ青いやじるし
まだだれもしらない雨のはじまりを運命線にうけるてのひら

ゆき @chatdeyuki

水の中から

正午過ぎどこにもゆけない観覧車 回教寺院のむこうには海
貝殻の螺旋の中の「しん」という音が聴こえる 水から生まれた
幸福な深海生物ただよって名前を持たないまま水の中
水底で吐かれた嘘は満ち満ちて海から四月の魚の群れ
言えたかもしれない言葉あったかもしれないあの日 雨がやまない
やまないね雨やまないねと言いつつあつてゆつくり舟は浮かびはじめる

古川みほ @books_hyacinth

午前八時十五分

五年間住んでた街の川だから三角州にも引かれた黄線
ノート閉じあの頃泣いたもの思う死ねない人が群れゆくビデオ
「一杯の水をください」「ええどうぞ」そんなことさえ言えない悲劇
出来ればと続いた歌と水を受けキョウチクトウが揺れてる花壇
青空に似たネクタイを崩すほど強い抱擁伝えるテレビ
明日からは全てを流す雨が降る片付け終えて手合わす時間

ルオ @ruo129

宇宙からの雨

見慣れない形の船から見慣れない形の人がわらわらわらと
この星は水の星だね遠くから来た僕たちはひっそり笑う
火星にも海はあるのと言う君にやさしくわたす白い貝殻
七月の夜空をごらん彗星はミルキーウェイを遊泳してく
漂った先で待つてる名も知らぬ人ともきつと仲良くできるよ
宇宙から雨が降ります ベントラー 覚めない夢もきつと覚めます

Y 川 @clonecoyamato

あきのみずほ
空記野みずほ

あきやまきいと
秋山生糸

あめのうずめ
天野うずめ

ありもろききょう
有村桔梗

あんのかよ
あんのかよ

いだなお
井田直

いづみつ
伊豆みつ

いないずみ。

うさうらら

うしりゆすけ
牛隆佑

うはきよくせつ
紆夜曲雪

えいじ
泳二

おおたせいじ
太田青磁

おおはしはると
大橋春人

おがわまごこ
小川窓子

おぎもりみほ
秘森美帆

おのだひかる
小野田光

かいぜん
@kaizen_nagoya

かざはし あさも
風橋平

かじはらかずと
梶原一人

かずさ
梶紗

かぜのみずと
風野瑞人

かつらいす

かわしまれい
河島レイ

かわばたきこう
川庭多機構

きつね

きはらねこ
木原ねこ

きわこ
希和子

くどうよしお
工藤吉生

けいひねじ
鶏尾ねじ

こうのよう
河野瑤

こうもろかな
香村かな

こぎともり
漕戸もり

ことひらよういち
琴平葉一

さくまるね
左久間瑠音

ササキ アンコ

ささとにかな
笹谷香菜

しつとりんご
嫉妬杯檜

しまださくらこ
嶋田さくらこ

じゃつくめ
雀來豆

しゆんれい
春麗

すぎたにまい
杉谷麻衣

スコラブ

たえなかず

たけだ
竹田

たねがしまてつおとこ
種子島鉄男

たもろはだか
田村穂隆

ちごりん
知己凜

ちばらこはぎ
千原こはぎ

つかだちづか
塚田千束

つきおかないる
月丘ナイル

つきした さくら
月下桜

とみいえひろこ

ながつきゆう
長月優

なかむらせいじ
中村成志

なつきゆう
奈月遥

ななみ
七波

にしじゆんご
西淳子

ぬまじりつたこ
沼尻つた子

はしばみ みずほ
榛 瑞穂

はっか
薄荷。

ひそのゆうこ

ふえちしずえ
笛地静恵

ふくやまももか
福山桃歌

ふくまる あめ
文車 雨

ふるいひさしげ
古井久茂

ほさきまどか
穂崎円

ますだたつろう
増田達郎

みかげことは
深影コトハ

みなみるか
南瑠夏

みみ
衣未

みやぎみずほ
宮水水菜

みやじまいつく
宮嶋いつく

もぎのゆか
麦野結香

もろたかある
村田馨

もちづきまりは
望月月里葉

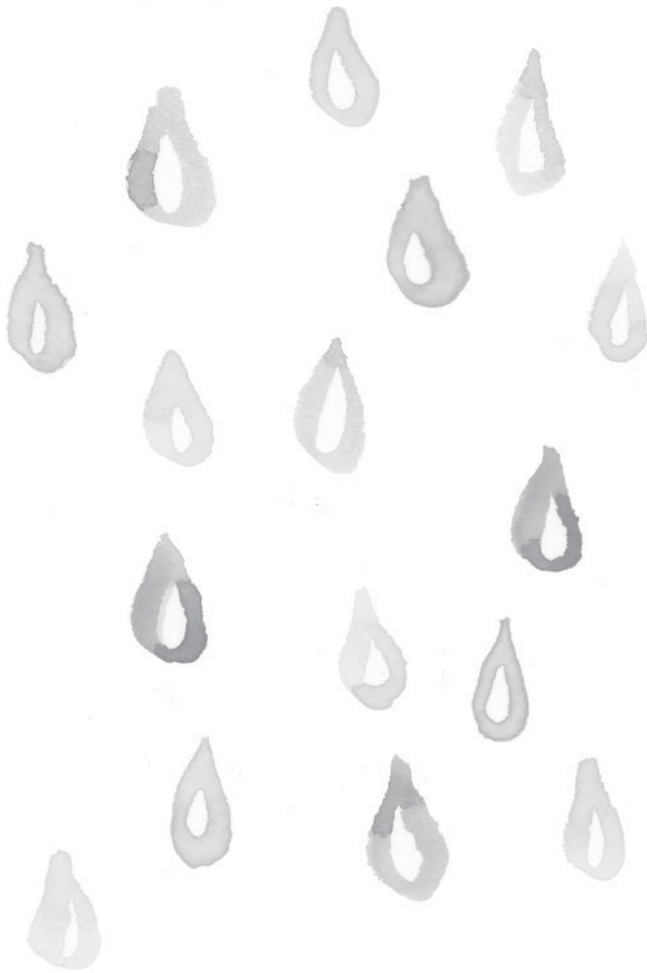
ゆき

よしかみほ
吉川みほ

ルオ

わいかわ
丫川

ご参加
いただいた
皆さま
(五十音順 敬称略)



2016年初夏 「水」がテーマの合同短歌集 みづつき5

発行：2016.06.06 | 短歌：ご投稿くださった皆様 | 企画・編集・装丁：千原こはぎ